

# くるにゃん通信



← 公式ホームページ QR コード ←



ICT の活用をテーマに  
お知らせしますにゃん。

マスコットキャラクター  
「くるにゃん」

新型コロナウイルスによる感染拡大に伴い、様々な場面で活動が制約される中、zoom 等のビデオ会議ツールが急速に発展し、会議や研修も当たり前のように行われるようになりました。ICT の活用は私達ケアマネジャーにとっても避けて通ることのできないものとなってきています。前号に引き続き、今号も ICT の活用をテーマに皆さんにお届けいたします。



## ●ICT 活用紹介 宇和島市のみさいやネットって？

宇和島市の「みさいやネット」は、医療介護連携システムとして活用され、病院、診療所、歯科診療所、訪問看護ステーション、薬局、介護事業所等が患者の情報共有をすることができる、地域包括ケアに対応したヘルスケア SNS です。



活用事例の中には、癌患者などの終末期の患者情報を医師・薬局・訪問看護・ケアマネジャーなどの関係事業所との連絡、報告、相談を SNS を通じて情報共有し、業務が多忙な関係者とタイムリーな状態の把握と連携、医療や介護方針を決定し、生活を支えることができます。

「入院時情報提供書」においては、フォーマットを活用し、日時に関係なく、訪問や FAX 不要で、「みさいやネット」を通じて情報提供することができます。

一部の医療機関では血液検査の結果や処方内容も確認ができ、患者の正確な医療情報を確認し、健康状態や医療情報の確認ができ、ケアマネジャーの業務改善にも一役買っている事業です。



ふむふむ。なかなかに素晴らしいシステムにゃん。  
活用するケアマネも個人情報の提供に対して、責任を  
もって伝えていかないといいにゃいね。

# ●みさいやネットの立ち上げについて、聴いてみよう！

(宇和島市地域包括支援センターの岩村正裕センター長に聴きました。)

**Q：立ち上げにあたって、苦慮したことは何ですか。(事前の根回し等、配慮した点。)**

A：導入において考えたのは、同意取得のタイミングとやり方。みさいやネットの基幹システム「Net4U」を導入している他市においては、同意取得は病院や診療所が行っており、それでは登録者が増えないと感じていました。

要介護認定者と居宅介護支援事業所との契約時でも同意取得を可能として、患者情報の共有の同意について口頭でも可とされたこと(令和2年3月31日厚生労働省事務連絡)から、みさいやネットについても口頭同意を可としました。そのため、登録者は増え続けています。

今も苦労しているのは、診療所のユーザーが少ないことで、現在11診療所にとどまっています。在宅医療に力を入れていない診療所はなかなか加入いただけませんが、地域包括支援センターの日々の業務の中で、患者の親族関係や生活状況等の情報の問い合わせがあるので、医療介護連携の必要性をPRして、加入診療所を増やしていきたいと考えています。

**Q：みさいやネットのユーザーに必要な環境設定は？**

A：通常のインターネット環境があれば利用可能。パソコン、タブレット、スマホそれぞれ対応可能です。

**Q：個人情報のセキュリティはどのようにしていますか。**

A：ID・パスワードの具体的管理方法として、登録端末にセキュリティ証明書を登録することで、利用端末を限っています。登録者以外のPCやスマホでは、まず初期画面にたどり着くことはできません。その上で個人別のIDとパスワードでログインし、初めて画面閲覧が可能となります。パスワードは定期的に更新。また年1回ユーザーにセキュリティ講習を実施しています。



## ●利用しているケアマネジャーに聞いてみました！

### Q：実際に利用して感じているメリットは何ですか？

A:土・日・祝日、連携室の営業時間外や急な入院時であっても入院時情報提供書をみさいやネットで伝えることができるので、とても便利です。

・医師や訪問看護師など、繁忙な時間や不在で捕まらないことも多く、時間や曜日、その方の都合を気にせずにタイムリーに情報共有ができます。メッセージは掲示板方式で、時系列に報告が羅列され、かつ、相手を読んだのかも確認できるので、安心です。

・一つの病院だけですが、血液検査結果や処方内容がタイムリーに更新されているので、医療情報がわかりやすいです。

### Q：利用時に気を付けていることや悩んでいることはありますか？

A：みさいやネットで個人情報やり取りされることを拒否的にとらえる方もいるので、メリットを伝えながら理解を進めています。

・個人情報をどこまで開示していいのか悩むこともあります。家族関係のナイーブな問題やケアマネとクライアントとの信頼関係を構築してきた中で吐露してくれた心情など、どんな情報でも開示するのではなく、ケアマネとして医療職との連携やケアとして必要とする情報が何かを吟味して伝えるようにしています。

・とても便利ではありますが、顔が見えないので温かみに欠ける点がありますが、対面でのつながりも大切にしていきたいです。

## ★各地区のICT活用に取り組んでいる事業所レポート★

### 東予

東予地区では四国中央市の「居宅介護支援事業所 すいは」と「居宅介護支援事業所 いしかわ」さんにお話を伺いました！！

### Q：導入されたきっかけはありますか？

A：私たちの事業所は、四国中央市の地域医療を支える石川ヘルスケアグループとして、HITO 絆プロジェクトと称する地域と医療・介護等を繋ぐ活動に取り組んでいます。コロナの影響により、多職種間の連携が取りにくくなっている現状があったため、医療・介護の連携強化のためにiPhoneの活用を始めたことがきっかけです。

### Q：どのようなメリットがありますか？

A：業務用SNS（Webex）を利用することで、1対多数のコミュニケーションが可能となり、ご利用者毎の情報を多職種で共有ができるようになりました。それにより、情報密度が向上し、退院調整やサービス担当者会議の内容を深めることができるようになりました。

### Q：実際の活用例を具体的に教えてください。

A：ご利用者のリハビリの様子や褥瘡の状態等が写真や動画で確認しています。そのため、アセスメントや目標設定も行いやすくなりました。ご利用者の状態がリアルタイムに情報共有できるため、ターミナル期・急激に変化する病状においても、必要な時に必要な支援を提供する事ができています。迷ったら直ぐにSNSを通し、主治医に確認する事もできるので、質の高いチームケアの提供ができています。



## 中予

中予地区でいち早く ICT を活用されている社会福祉法人慈光会ていれぎ荘&味酒野ていれぎ荘のケアマネジャーさんにお話を伺いました！！

Q：ICT を導入しようと思ったきっかけを教えてください！

A：ずばり、記録にかかる時間を減らすことです。業務効率化を目的に上司と相談し R3 年 12 月から ICT を導入することになりました。当法人では、ipad を使用したリモートデスクトップシステムを使用しています。2 事業所ともに逡減性の加算も取得しています。端末代と通信代のみのため導入コストを抑えられることがメリットです。

Q：リモートデスクトップシステムはどういうものですか？

A：事業所内の PC データを遠隔で ipad から操作ができるという仕組みです。



Q：ipad をどのように活用していますか？

A：基本的には ipad 持参で外出するため、訪問先で利用票の変更や限度額の計算ができます。ICT 導入前は、概算金額を伝え、事業所に戻り限度額の計算を行ってから連絡をしていましたが、その手間は省くことができました。記録入力も可能なため、訪問の合間を使って車内で記録をする等工夫をしています。記録は音声入力を活用することで、時間短縮が可能となりました。個人情報については細心の注意を払い、同意を得た上で保険証関係の証書を撮影し事業所で印刷。（印刷後は必ずデータ削除）現在では利用者様から保険証を預かることはほぼありません。また、住宅改修にむけて自宅環境の撮影や動画機能も活用することで、口頭や静止画では伝わり難かった情報をよりリアルに共有できることはメリットです。端末が ipad のため、ログインは指紋認証にしており、他人がログインすることはできません。また、災害やコロナ発生時等も想定しテレワークにも活用できるようにしています。

Q：業務の効率化は図れましたか？

A：記録にかかる時間は大幅に減少し残業代は減少しています。業務の効率化を図る中で、利用者様と関わる時間をなるべく多く確保できるよう気をつけています。

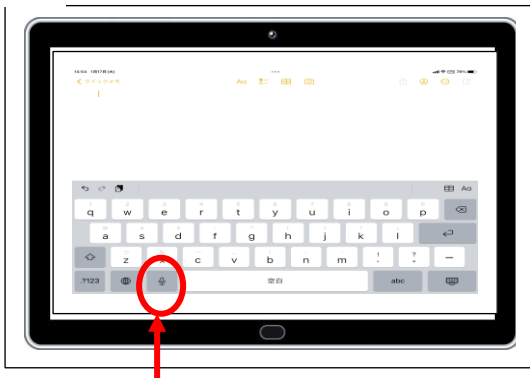


Q：他事業所のケアマネさんに伝えたいことはありますか？

A：時代の流れとして ICT 導入は今後必須になると思います。法人内でも、ipad 導入に向けて、使用方法や注意点について業者からの説明を受け、2 事業所で操作方法について勉強会も行いました。苦手意識をもたずに新しいことにチャレンジすることで業務の効率化を図ることができると思います。



操作画面をご紹介します



マイクボタンを押すと音声入力ができます。



キーボード入力も適宜活用します！

南予

南予地区からは宇和島市の居宅介護支援事業所 「ケアサービス ひばり」 さんにお話を伺いました！！

Q:導入されたきっかけはありますか？

A：訪問の合間の隙間時間にタブレットに口頭で支援経過記録ができる機能があることが導入のきっかけです。

Q:その他にも便利な機能や活用しているところはありますか？

A：担当者会議やカンファレンスでの口頭でのやり取りが記録されます。

ただし、自動で要点をまとめてくれるわけではないので、帰社後に記録を確認し、修正することは必要ですね。長時間の担当者会議やカンファレンスなどは不向きかもしれません。

また、参加者の多い会議などは口頭でのやり取りをタブレットが読み取りづらい点もあります。

新規の利用者の住所など基本情報を登録するとグーグルマップで自動検索し、マップが表示されますので、新規のご自宅訪問時に迷うことなく行くことができます。住宅地図で探してコピーするというアナログ作業はなくなりました。

アセスメント時に内容をその場で記録する機能もありますが、タブレットの入力に集中するあまり、目の前のご利用者やご家族との言語・非言語コミュニケーションを見落とす可能性が高いため、多用は控えています。

Q:今後はどういったことに活かそうですか？

A：ケアプランを電子署名で同意を得たり、利用票の変更や訂正をタブレットでその場でお知らせすることができます。保管時はペーパーレスにすることもできるので、経費削減や省スペース化もできますので、現在、導入を検討中です。ただ、すべての方というわけではないのですが、高齢者の方の中には電子署名など抵抗感を示す方もいらっしゃいますので、いままでのように紙ベースでの活用も併用していく必要があると思います。その方のペースや思いに合わせてやっていくことが大切だと思っています。



## 令和4年度 スキルアップ研修

ファシリテーター養成研修 講師 NPO 法人まつなみ 理事長 峯尾 武巳先生

開催日 令和4年12月11日(日) 会場 ウエルピア伊予(芙蓉の間)



ひさびさの集合研修で行いました。各グループに分かれ、事例の全体像を把握し、情報を整理（構造化）しながら、いろいろな要因が関連し合っている状態を事例提供者とファシリテーターと一緒に理解を深めていきます。このような技術は実践で養っていくしかありませんが、綿密な事前準備をしなくても出来ることを学ぶことができました。ケアマネの育成は主任ケアマネの役割のひとつですが、集まることで指導する側の悩みや取り組みも情報交換できました。

# キッズジョブ松山 2020 に参加させていただきました！

2022年11月27日松山市総合コミュニティセンターにてキッズジョブ松山2022が開催され愛媛県介護支援専門員協会として初めて参加させていただきました。

松山市小中学校PTA連合会と市文化・スポーツ振興財団が主催し今回で8回目の開催。1000人程の小中学生が参加し、警察・プログラマー・愛媛プロレスなど約50業種の様々な仕事の中から3業種を体験するイベントです。参加者の子供さんに聞くとかなりの人気イベントの様子で何回も応募したが中々参加できなかつたともお聞きする事が出来ました。

今回愛媛県介護支援専門員協会では3名の理事が対応し、介護支援専門員の仕事を体験していただきました。

4~6人程を1グループとし2手に分かれヤングケアラーの事例からサービス予定表を参加者の皆さんで作っていただきました。

🌸 予定表作成中は「これじゃ宿題できない」「日曜日は家族と一緒にいたいね」など様々な意見が聞かれ、予定表を作っていただきました。来年の開催があればまた参加させていただきたいと思います。



## ちょっとひと息

### 我が家にコロナがやってきた！

11月上旬のある日、家族Aの「風邪ひいた〜」の一言から始まった朝。もしや…という思いは的中し、家族Aのコロナ陽性が判明しました。⇒濃厚接触者ということで、私と家族A、家族Bの隔離生活が始まりました。家族Aを隔離部屋に閉じ込め、怒涛の除菌生活。同じ建物に、感染者と非感染者が混在している状況では、厳密なゾーン分けは難しかったですが、とにかくアルコール消毒や時差作戦で、私とBは見事に待機期間を乗り越えました。洗面所ではA専用の引き出しを設け、引き出し口は元の色が分からなくなるくらい白くなりました。(アルコール焼け)。事前に用意して役立つものを紹介します。自宅療養を「刑務所」といったAも無事に回復しました！(飯尾)

### ▼事前に用意して絶対に役立つ物ベスト3品

- 薬局で買える解熱鎮痛剤
- 水分補給のためのスポーツドリンク
- ゼリー飲料など手軽に口にできる食物



のどごしのよいものを、消毒できる食器で。



やりとりはLINEです。どっだけメロンパン食べるの？(結局8個食べました。)

発行元

一般社団法人  
愛媛県介護支援専門員協会  
〒791-0244  
愛媛県松山市水産町90-1  
愛媛県介護支援専門員協会事務局  
Mail:ecma20150418@gmail.com

### 編集後記

編集にあたり、取材でたくさんの方にご協力いただきました。年末年始も重なりましたが、気持ちよくご協力くださった皆様に大感謝です。ICTの活用はますます広がると予測されますが、デジタルの便利さだけにとらわれず、利用者さんとの関りをより深くしていくツールにしたいですね。心のふれあいは、いかに時代が進歩しても大切にしていこうと思います。春が待ち遠しい！(山内)